



▲京都舞鶴港西港に寄港した大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」(7月21日)

クルーズ客船のさらなる誘致
クルーズ客船の誘致については、平成24年度の3回、昨年度の7回に對し、今年度は15回と過去最高の寄港予定であり、マイアミ(米国)や上海(中国)など国内外におけるこれまでの誘致活動が着実に実を結んでいます。その結果、海からの交流人口は1万人を超える見込みであり、昨年受賞したクルーズ・オブ・ザ・イヤー特別賞の荣誉に恥じないよう本市全体でもてなしを実施してまいります。併せて、京都舞鶴港の魅力を広く発信し、クルーズ客船のさらなる誘致を行うとともに、経済波及効果が高いとされる起点港化・母港化に向けた活動に取り組んでまいります。

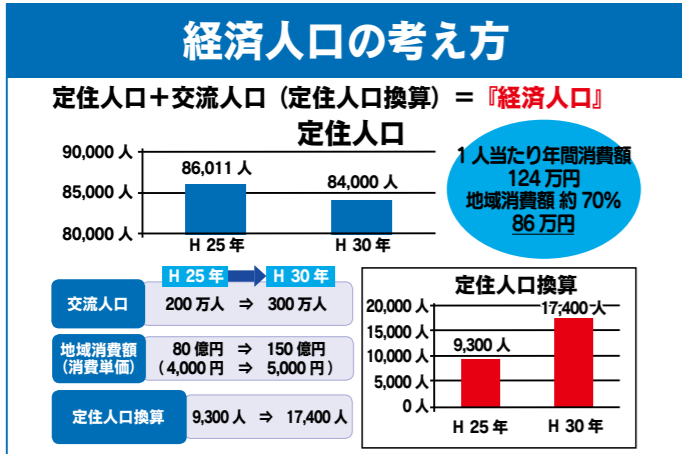


▲観光戦略拠点の赤れんがパーク

道路交通ネットワークの充実
活力あるまちづくりに必要不可欠な道路交通網の整備については、本年7月20日に舞鶴若狭自動車道(約16.2キロ)が全線開通しました。これにより北陸自動車道や名神高速道路、中国自動車道と一体となった高速道路の環状ネットワークが誕生。併せて本年度中には京都縦貫自動車道が全線開通する予定であり、高速道路ネットワークの充実に伴う時間短縮による本市への交流人口の増加が期待されます。

観光入込客数増への取り組み
都市基盤の整備を行う一方で、観光のソフト面については、観光戦略拠点である「赤れんがパーク」を中心に、豊かな観光資源をさらに磨きながら、観光によるまちづくりを進め、発信力のあるイベントの開催など、観光ブランド戦略に基づく観光振興施策の展開で、まちのにぎわい創出に努めています。平成25年の観光入込客数は、183万人で、平成24年度の161万人から着実に増加しており、本年においても220万人を目標に観光消費の増大を図ってまいります。

経済人口10万人を目指して
市では、定住人口減少による地域経済の落ち込みが課題となる中で、定住人口の減少を観光客などの交流人口の地域消費額の拡大によって補う新たな将来目標「経済人口」を設定しました。これは、現在の本市の定住人口に、交流人口がもたらす地域消費額から算出された定住人口換算数を加えた新たな人口フレームで、経済的な視点も含め、舞鶴市の人口を10万人規模とする都市像を目指すものです。今後、「経済人口10万人」の将来目標に向けて、定住人口の維持、交流人口の増加、地域消費のより一層の拡大を実現するための施策を展開し、地域経済の活性化を図りながら、活力あるまちづくりを推進してまいります。



| 項目 | 《現状(平成25年時点)》 | 《将来(平成30年)》 |
|-------------|-----------------|------------------|
| 定住人口 | 約86,000人 | 約84,000人 |
| 交流人口 | 約200万人 | 約300万人 |
| 地域消費額 | 約80億円 | 約150億円 |
| 1人当たり消費額 | 約4,000円 | 約5,000円 |
| 定住人口換算 | 約9,300人 | 約17,400人 |
| 経済人口 | 約95,300人 | 約101,400人 |

シリーズ市政の「今」第13回
経済人口10万人

「交流人口300万人・経済人口10万人のまち」舞鶴を目指して

国内全体の人口減少が進む中、本市においては、活力あるまちづくりを推進していくために、今後とも引き続き定住人口の減少を抑制するための各種定住促進策に取り組んでまいります。加えて魅力ある地域資源を最大限に活かして「人」「モノ」の流れをさらに活発にすることにより、交流人口の増加と地域経済の活性化を図ることが大切です。シリーズ市政の「今」第13回は、交流人口の増加をまちの活性化につなげ「交流人口300万人・経済人口10万人のまち」舞鶴を目指すまちづくりについてお知らせします。

「海の京都観光圏」の認定
本年7月に、全国で10地域の観光圏の一つとして、府北部5市2町を区域

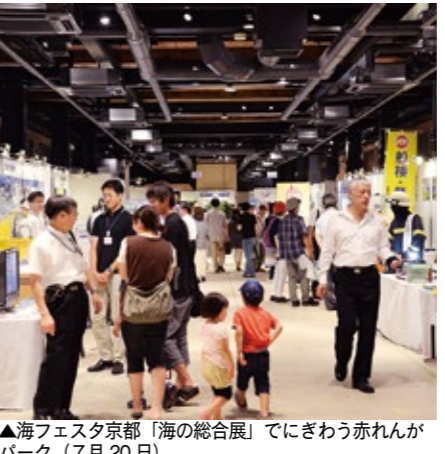
海フェスタ京都の開催
市では、交流人口の増加を目指し、7月19日から8月3日までの16日間にわたり、本市を中心とする京都府北部5市2町において「海フェスタ京都」を開催しました。「海フェスタ」は、海の恩恵に感謝する「海の日」に合わせて、毎年、全国の主な港湾都市で開催される日本最大級の海の祭典です。期間中は、海の総合展や船舶の一般公開、地域の特産品やグルメの販売、音楽ライブやプロジェクトショウマッピング、記念花火など、赤れんがパークと西港周辺でそれぞれの特色を活かした海に関するイベントを開催。5市2町全体で134万人もの多くの来場者でにぎわいを生み出し、成功裡に幕を下ろしたところです。

また、第2ふ頭では、大型クルーズ客船に對する対応するため、浚渫工事(水深を深くする工事)や係留施設が整備され、多くのクルーズ客船が寄港できるようになるなど、「人・モノ・情報」が交流する関西経済圏の日本海側ゲートウェイの実現に向けた取り組みは大きな成果をあげています。

京都舞鶴港の活用
対岸諸国との経済交流の拡大やまちの発展のためには、「海・港」の活用は極めて重要であり、国・府と連携した京都舞鶴港の整備と振興策を積極的に展開しています。京都舞鶴港における昨年のコンテナ貨物取扱量は6,906個と過去最高を記録。舞鶴国際ふ頭では、岸壁延伸工事が行われているほか、上屋の建設も進むなど、さらなる機能強化を目指し、整備が進められています。



▲本市をとりまく高速道路ネットワーク



▲海フェスタ京都「海の総合展」でにぎわう赤れんがパーク(7月20日)



▲海フェスタ京都で寄港した練習帆船「海丸」のセイルドリルを見る来場者(7月26日=京都舞鶴港西港)